論点整理ペーパー及び農薬専門調査会体制

(平成 28 年 4 月農薬専門調査会決定)

	頁
(食品健康影響評価を実施する部会を指定する農薬)	
ジクロルプロップ	1
シペルメトリン	4
デスメディファム	7
農薬専門調査会体制 (平成 28 年 4 月農薬専門調査会決定)	10

【参考】

(部会で ADI 等が決定し幹事会へ報告する農薬)	
クロラントラニリプロール	11
フルチアニル	12
プロシミドン	13

ジクロルプロップ

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価資料
・ 暫定基準	クロロフェ ノキシ系	エチレン生成抑制及びセル ラーゼ活性を抑制し、果実 の離層形成を遅らせる	植物成長調 整剤	・ 農薬抄録 ・ 海外評価書

【試験成績の概要】

1. ¹⁴C で標識したジクロルプロップのラットを用いた動物体内運命試験の結果、投与後 96 時間の吸収率は 74.5%～82.8%と考えられた。投与された放射能の大部分は、主に尿中に排泄された。尿中の主要成分は未変化のジクロルプロップであり、ほかにジクロルプロップの抱合体が認められた。
2. ¹⁴C で標識したジクロルプロップ P のラットを用いた動物体内運命試験の結果、投与後 120 又は 168 時間の体内吸収率は、89.0%～95.9%と考えられた。T_{1/2} は低用量群で 4.40～14.8 時間で、高用量群で 6.55～16.5 時間であり、主に尿中へ排泄された。尿及び糞中に未変化のジクロルプロップが認められた。
3. ¹⁴C で標識されたジクロルプロップ P の畜産動物を用いた動物体内運命試験の結果、主要臓器中の主要成分は未変化のジクロルプロップ P であった。
4. ¹⁴C で標識したジクロルプロップを用いた植物体内運命試験の結果、残留放射能中の主な成分は未変化のジクロルプロップ及びジクロルプロップの抱合体であった。小麦を用いた植物体内運命試験では茎葉中に代謝物 M1 及び M2 が認められた。
5. 各種毒性試験結果から、ジクロルプロップ投与による影響は、主に肝臓（肝細胞肥大、壊死等）、腎臓（遠位尿細管上皮多核細胞化、石灰沈着等）及び血液（貧血）に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。
6. 各種毒性試験結果から、ジクロルプロップ P 投与による影響は、主に体重（増加抑制）に認められた。

【評価を受ける部会（予定）】：評価第三部会

ジクロロプロップ (DICHLORPROP)

残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	C o d e x	米 国	豪 州	加 国	E U	N Z	類 型	残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	C o d e x	米 国	豪 州	加 国	E U	N Z	類 型									
農産物に係る基準値																														
米(玄米)											3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
小麦											10	登録		10								4								
大麦											3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
ライ麦											3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
とうもろこし	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
そば											3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
その他の穀類											3	登録		3			0.1		0.05			3-1								
大豆	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
小豆類	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
えんどう	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
そら豆	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
らっかせい	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
その他の豆類	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
ばれいしょ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
かんしょ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
やまいも(長いものをいう。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
こんにやくいも	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
その他のいも類	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
てんさい	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
さとうきび											3	登録		3					0.05			3-1								
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
かぶ類の根	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
かぶ類の葉	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
西洋わさび	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
クレソン	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
はくさい	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
キャベツ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
芽キャベツ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
ケール	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			4								
こまつな	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
きょうな	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
チンゲンサイ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
カリフラワー	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
ブロッコリー	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
その他のあぶらな科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
ごぼう	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
サルシフィー	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
アーティチョーク	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
チコリ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
エンダイブ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
しゅんぎく	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
その他のきく科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
たまねぎ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
ねぎ(リーキを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
にんにく	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
にら	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
アスパラガス	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
わけぎ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
その他のゆり科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			3-1								
にんじん	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
パースニップ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
パセリ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
セロリ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
みつば	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
その他のせり科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
トマト	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
ピーマン	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
なす	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
その他のなす科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
しろり	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
すいか	3	登録						0.05		3-1																				
メロン類果実	3	登録						0.05		3-1																				
まくわうり	3	登録						0.05		3-1																				
その他のうり科野菜	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
ほうれんそう	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
たけのこ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
オクラ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
しょうが	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
未成熟えんどう	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
未成熟いんげん	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
えだまめ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
マッシュルーム	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05			5								
しいたけ	0.05	海外						0.05		5	3	登録		3					0.05											

ジクロロプロップ (DICHLORPROP)

残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	C o d e x	米 国	豪 州	加 国	E U	N Z	類 型	残留基準値	参考基準国	残留基準	C o d e x	類 型
牛の筋肉															
豚の筋肉															
その他の陸棲哺乳類の筋肉															
牛の脂肪															
豚の脂肪															
その他の陸棲哺乳類の脂肪															
牛の肝臓															
豚の肝臓															
その他の陸棲哺乳類の肝臓															
牛の腎臓															
豚の腎臓															
その他の陸棲哺乳類の腎臓															
牛の食用部分															
豚の食用部分															
その他の陸棲哺乳類の食用部分															
乳															
鶏の筋肉															
その他の家禽の筋肉															
鶏の脂肪															
その他の家禽の脂肪															
鶏の肝臓															
その他の家禽の肝臓															
鶏の腎臓															
その他の家禽の腎臓															
鶏の食用部分															
その他の家禽の食用部分															
鶏の卵															
その他の家禽の卵															
魚介類(さけ目魚類に限る。)															
魚介類(うなぎ目魚類に限る。)															
魚介類(すずき目魚類に限る。)															
魚介類(その他の魚類に限る。)															
魚介類(貝類に限る。)															
魚介類(甲殻類に限る。)															
その他の魚介類															
はちみつ															

※留意事項※
※ジクロロプロップ-Pを含む。
※表の見方他※
<ul style="list-style-type: none"> ・「残留基準値」の列(太字・黄色背景)にある数値が、現在「食品、添加物等の規格基準(昭和34年12月28日厚生省告示第370号)」において告示されている基準値である。 ・基準値が空欄の食品については、一律基準値0.01ppmが適用される。 ・表中の農作物、畜水産物、加工食品の名称は、告示されているものと便宜的に異なる場合がある。 ・個別の食品がどの分類に属するかの詳細については、別途お示しすることとしているが、該当がない食品(ワカメ等の海藻類や、ワニの肉、プロボリス等のその他食品)については、一律基準値が適用される。 ・加工食品については、当該加工食品に基準値がある場合、また当該加工食品から派生した加工食品について判断する場合、加工食品の基準が優先して適用される。 ・なお、加工食品のうち残留基準を設定しないものについては、原則として、残留基準に適合した原材料を用いて製造され又は加工されたものであれば、流通を可能とすることとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・表中の残留基準値は、平成17年11月29日現在のものであり、今後随時改訂されることがあり得る。 ・表中の登録保留基準値、国際基準値、海外基準値等は、原則として暫定基準等(最終案)公表時に当方が把握していたものであり、最新の情報とは異なる可能性がある。

シペルメトリン

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価資料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 暫定基準 ・ 適用拡大 	ピレスロイド系	昆虫体内に侵入し、末梢又は中枢神経の軸索又シナプスに作用し、神経の反復興奮を起こす	殺虫剤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬抄録 ・ 海外評価書

【試験成績の概要】

1. ¹⁴C で標識したシペルメトリンのラットを用いた動物体内運命試験の結果、体内吸収率は少なくとも 58.5%と算出された。投与後 72 時間において投与放射能の 80%以上が尿中及び糞中に排泄された。尿中の主要代謝物は、[cyc-¹⁴C]シペルメトリン投与群では M28 及び M28 のグルクロン酸抱合体、[phe-¹⁴C]シペルメトリン投与群では M22 及び M24 の硫酸抱合体、[CN-¹⁴C]シペルメトリン投与群ではチオシアン酸イオンであり、糞中の主要代謝物はいずれの標識体投与群でも未変化のシペルメトリンであった。
2. ¹⁴C で標識したシペルメトリンの畜産動物（ニワトリ及びウシ）を用いた動物体内運命試験の結果、主要代謝物として M22 並びに M22 のグルタミン及びグリシン抱合体が認められた。
3. ¹⁴C で標識したシペルメトリンを用いた植物体内運命試験の結果、10%TRR を超える代謝物として、M24 及び M28 が認められた。
4. 各種毒性試験結果から、シペルメトリン投与による影響は、主に神経症状（振戦等）、体重（増加抑制）、及び血液（貧血）に認められた。繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。
5. マウスを用いた慢性毒性/発がん性併合試験で肺胞腺腫の発生頻度増加が認められたが、発生機序は遺伝毒性によるものと考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

【評価を受ける部会（予定）】：評価第一部会

シペルメトリン(CYPERMETHRIN)

品名	残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	Codex	米国	豪州	加国	EU	NZ	類型	加工食品に係る基準値					
												残留基準値	参考基準国	残留基準	Codex	類型	
畜水産物に係る基準値													加工食品に係る基準値				
牛の筋肉	0.1	海外				0.2	0.01		0.2		5	乾燥させたその他のスパイス(果実に限る。)	0.1	Codex		0.1	2
豚の筋肉	0.1	海外				0.2	0.01		0.2		5						
その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.1	海外				0.2	0.01		0.2		5						
牛の脂肪	0.2	Codex			0.2	1	0.5		0.2		2	乾燥させたその他のスパイス(根又は根茎に限る。)	0.2	Codex		0.2	2
豚の脂肪	0.2	Codex			0.2	1	0.05		0.2		2						
その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.2	Codex			0.2	1	0.5		0.2		2						
牛の肝臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2	植物油(精製したものに限り。)	0.5	Codex		0.5	2
豚の肝臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
その他の陸棲哺乳類の肝臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
牛の腎臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2	ミネラルウォーターに係る基準値					
豚の腎臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
その他の陸棲哺乳類の腎臓	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
牛の食用部分	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
豚の食用部分	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
その他の陸棲哺乳類の食用部分	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.2		2						
乳	0.05	Codex			0.05	0.1	0.01		0.02		2						
鶏の筋肉	0.05	Codex			0.05	0.05	0.01		0.05		2						
その他の家禽の筋肉	0.05	Codex			0.05	0.05	0.01		0.05		2						
鶏の脂肪	0.1	海外				0.05	0.05		0.2		5						
その他の家禽の脂肪	0.1	海外				0.05	0.05		0.2		5						
鶏の肝臓	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
その他の家禽の肝臓	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
鶏の腎臓	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
その他の家禽の腎臓	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
鶏の食用部分	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
その他の家禽の食用部分	0.05	海外				0.05	0.05		0.05		5						
鶏の卵	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.05		2						
その他の家禽の卵	0.05	Codex			0.05	0.05	0.05		0.05		2						
魚介類(さけ目魚類に限る。)	0.03	海外					0.01		0.05		5						
魚介類(うなぎ目魚類に限る。)	0.01	海外					0.01				5						
魚介類(すずき目魚類に限る。)	0.01	海外					0.01				5						
魚介類(その他の魚類に限る。)	0.01	海外					0.01				5						
魚介類(貝類に限る。)	0.01	海外					0.01				5						
魚介類(甲殻類に限る。)	0.01	海外					0.01				5						
その他の魚介類	0.01	海外					0.01				5						
はちみつ	0.01	海外					0.01				5						

※留意事項※

- ※アイソマーを含む。
- ※茶の分析法は熱湯抽出法による。
- ※おくら、及びその他の果実については、海外における作物残留試験の成績を考慮。
- ※カカオ豆は、フランスの残留基準による。

※表の見方※

- ・「残留基準値」の列(太字・黄色背景)にある数値が、現在「食品、添加物等の規格基準(昭和34年12月28日厚生省告示第370号)」において告示されている基準値である。
- ・基準値が空欄の食品については、一律基準値0.01ppmが適用される。
- ・表中の農作物、畜水産物、加工食品の名称は、告示されているものと便宜的に異なる場合がある。
- ・個別の食品がどの分類に属するかの詳細については、別途お示しすることとしているが、該当がない食品(ワカメ等の海藻類や、ワニの肉、プロボリス等のその他食品)については、一律基準値が適用される。
- ・加工食品については、当該加工食品に基準値がある場合、また当該加工食品から派生した加工食品について判断する場合、加工食品の基準が優先して適用される。
- ・なお、加工食品のうち残留基準を設定しないものについては、原則として、残留基準に適合した原材料を用いて製造され又は加工されたものであれば、流通を可能とすることとする。

- ・表中の残留基準値は、平成17年11月29日現在のものであり、今後随時改訂されることがあり得る。
- ・表中の登録保留基準値、国際基準値、海外基準値等は、原則として暫定基準等(最終案)公表時に当方が把握していたものであり、最新の情報とは異なる可能性がある。

デスメディファム

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価書に追加した資料
・ 暫定基準	カルバニラート系	非ホルモン型、吸収移行性の光合成阻害剤	除草剤	・ 農薬抄録 ・ 海外評価書（米国、EU）

【試験結果の概要】

1. 動物体内運命試験の結果、経口投与されたデスメディファムの吸収率は、低用量投与群で 69.8%～91.5%、高用量投与群で 35.7%～50.8%と算出された。投与放射能は投与後 96 時間で尿及び糞中に 87.1%TAR～102%TAR 排泄され、低用量の単回投与及び反復投与では主に尿中に、高用量の単回投与では主に糞中に排泄された。臓器及び組織への蓄積性は認められなかった。主要成分は尿中では代謝物 B、D、F 及び G、糞中では代謝物 B、D、F 及び I であった。これらの代謝物の多くは、サルフェート又はグルクロン酸抱合体として認められた。未変化のデスメディファムは糞中のみに僅かに検出された。
2. 畜産動物体内運命試験の結果、泌乳牛では乳汁、臓器及び組織中に代謝物 B、D 及び G、ニワトリでは卵黄中に代謝物 B 及び D がそれぞれ 10%TRR を超えて認められた。
3. 植物体内運命試験の結果、未変化のデスメディファムは成熟期のてんさいの茎葉部で 1.4%TAR～40.4%TRR 認められたが、根部で 1.4%TRR 以下であった。10%TRR を超える代謝物として N、Q 及び S が茎葉部で認められた。可食部の根部では 10%TRR を超える代謝物は認められなかった。
4. 各種毒性試験結果から、デスメディファム投与による影響は、主に体重（増加抑制）、血液（溶血性貧血、MetHb 血症）、肝臓（色素沈着）、脾臓（色素沈着及び髓外造血）及び甲状腺（ろ胞細胞肥大）に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。
5. 発生毒性試験（ラット）において、外表異常（無下顎、小下顎、口蓋裂等）、内臓異常（心室中隔欠損等）及び骨格異常（胸骨核欠損、胸骨核非対象等）が認められた。

【評価を受ける部会（予定）】：評価第二部会

デスメディファム (DESMEDIPHAM)

残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	Codex	米	豪州	加国	EU	NZ	類型	残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	Codex	米	豪州	加国	EU	NZ	類型
農産物に係る基準値																					
米(玄米)											みかん										
小麦											なつみかん										
大麦											なつみかんの外果皮										
ライ麦											なつみかんの果実全体										
とうもろこし											レモン										
そば											オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)										
その他の穀類											グリーンフルーツ										
大豆											ライム										
小豆類											その他のかんきつ類果実										
えんどう											りんご										
そら豆											日本なし										
らっかせい											西洋なし										
その他の豆類											マルメロ										
											びわ										
ばれいしよ											もも										
さといも類(やつがしらを含む。)											ネクタリン										
かんしょ											あんず(アブリコットを含む。)										
やまいも(長いもをいう。)											すもも(プルーンを含む。)										
こんにやくいも											うめ										
その他のいも類											おうとう(チェリーを含む。)										
てんさい	0.2	現行	0.2								いちご										
さとうきび											ラズベリー										
											ブラックベリー										
だいこん類(ラディッシュを含む。)											ブルーベリー										
だいこん類(ラディッシュを含む。)											クランベリー										
かぶ類の根											ハuckleベリー										
かぶ類の葉											その他のベリー類果実										
西洋わさび											ぶどう										
クレソン											かき										
はくさい											バナナ										
キャベツ											キウイ										
芽キャベツ											パパイヤ										
ケール											アボカド										
こまつな											パイナップル										
きょうな											グアバ										
チンゲンサイ											マンゴ										
カリフラワー											パッションフルーツ										
ブロッコリー											なつめやし										
その他のあぶらな科野菜											その他の果実										
こぼろ											ひまわりの種子										
サルシフィー											ごまの種子										
アーティチョーク											べにばなの種子										
チコリ											綿実										
エンダイブ											なたね										
しゅんぎく											その他のオイルシード										
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)											ぎんなん										
その他のきく科野菜											くり										
たまねぎ											ペカン										
ねぎ(リーキを含む。)											アーモンド										
にんにく											くるみ										
にら											その他のナッツ類										
アスパラガス											茶										
わけぎ											コーヒー豆										
その他のゆり科野菜											カカオ豆										
にんじん											ホップ										
パースニップ											その他のスパイス	20	独立								
パセリ											その他のハーブ	20	独立								
セロリ																					
みつば																					
その他のせり科野菜																					
トマト																					
ピーマン																					
なす																					
その他のなす科野菜																					
きゅうり(ガーキンを含む。)																					
かぼちゃ(スカッシュを含む。)																					
しろうり																					
すいか																					
メロン類果実																					
まくわうり																					
その他のうり科野菜																					
ほうれんそう																					
たけのこ																					
オクラ																					
しょうが																					
未成熟えんどう																					
未成熟いんげん																					
えだまめ																					
マッシュルーム																					
しいたけ																					
その他のきのこ類																					
その他の野菜	20	海外				15															5

デスメディファム (DESMEDIPHAM)

残留基準値	参考基準国	残留基準	登録保留基準	C o d e x	米 国	豪 州	加 国	E U	N Z	類 型	残留基準値	参考基準国	残留基準	C o d e x	類 型
畜水産物に係る基準値															
牛の筋肉															
豚の筋肉															
その他の陸棲哺乳類の筋肉															
牛の脂肪															
豚の脂肪															
その他の陸棲哺乳類の脂肪															
牛の肝臓															
豚の肝臓															
その他の陸棲哺乳類の肝臓															
牛の腎臓															
豚の腎臓															
その他の陸棲哺乳類の腎臓															
牛の食用部分															
豚の食用部分															
その他の陸棲哺乳類の食用部分															
乳															
鶏の筋肉															
その他の家禽の筋肉															
鶏の脂肪															
その他の家禽の脂肪															
鶏の肝臓															
その他の家禽の肝臓															
鶏の腎臓															
その他の家禽の腎臓															
鶏の食用部分															
その他の家禽の食用部分															
鶏の卵															
その他の家禽の卵															
魚介類(さけ目魚類に限る。)															
魚介類(うなぎ目魚類に限る。)															
魚介類(すずき目魚類に限る。)															
魚介類(その他の魚類に限る。)															
魚介類(貝類に限る。)															
魚介類(甲殻類に限る。)															
その他の魚介類															
はちみつ															

※留意事項※

※表の見方他※

- ・「残留基準値」の列(太字・黄色背景)にある数値が、現在「食品、添加物等の規格基準(昭和34年12月28日厚生省告示第370号)」において告示されている基準値である。
- ・基準値が空欄の食品については、一律基準値0.01ppmが適用される。
- ・表中の農作物、畜水産物、加工食品の名称は、告示されているものと便宜的に異なる場合がある。
- ・個別の食品がどの分類に属するかの詳細については、別途お示しすることとしているが、該当がない食品(ワカメ等の海藻類や、ワニの肉、プロボリス等のその他食品)については、一律基準値が適用される。
- ・加工食品については、当該加工食品に基準値がある場合、また当該加工食品から派生した加工食品について判断する場合、加工食品の基準が優先して適用される。
- ・なお、加工食品のうち残留基準を設定しないものについては、原則として、残留基準に適合した原材料を用いて製造され又は加工されたものであれば、流通を可能とすることとする。

・表中の残留基準値は、平成17年11月29日現在のものであり、今後随時改訂されることがあり得る。
 ・表中の登録保留基準値、国際基準値、海外基準値等は、原則として暫定基準等(最終案)公表時に当方が把握していたものであり、最新の情報とは異なる可能性がある。

農薬専門調査会体制(平成28年4月農薬専門調査会決定)

幹事会

農薬専門調査会座長及び座長代理、各部会座長、農薬専門調査会座長が指名した者

審議結果を幹事会に報告

幹事会

西川 秋佳 《座長》	清家 伸康
納屋 聖人 《座長代理》	※永田 清
※赤池 昭紀	中島 美紀
浅野 哲	長野 嘉介
※上路 雅子	林 真
小野 敦	本間 正充
三枝 順三	※松本 清司
代田 真理子	與語 靖洋

評価第一部会

- 小澤 正吾
(岩手医科大教授・動物代謝)
- 平塚 明 《座長代理》
(東京薬科大教授・動物代謝)
- 清家 伸康
(農研機構ユニット長・植物代謝)
- 本多 一郎
(前橋工科大教授・植物代謝)
- 相磯 成敏
(バイオアッセイ研部長・毒性)
- ※赤池 昭紀
(名古屋大教授・毒性)
- 浅野 哲 《座長》
(国際医療福祉大教授・毒性)
- 佐藤 洋
(岩手大教授・毒性)
- 豊田 武士
(国衛研室長・毒性)
- 平林 容子
(国衛研部長・毒性)
- ※藤本 成明
(広島大准教授・毒性)
- 桑形 麻樹子
(秦野研究室長・生殖)
- 堀本 政夫 《座長代理》
(千葉科学大教授・生殖)
- 山本 雅子
(麻布大教授・生殖)
- 林 真
(安評センター名誉理事長・遺伝毒性)
- 森田 健
(国衛研室長・遺伝毒性)
- 若栗 忍
(秦野研研究員補・遺伝毒性)

評価第二部会

- 杉原 数美
(広島国際大教授・動物代謝)
- 中島 美紀
(金沢大教授・動物代謝)
- ※永田 清
(東北医科薬科大教授・動物代謝)
- 腰岡 政二
(日本大教授・植物代謝)
- 中山 真義
(農研機構研究領域長・植物代謝)
- 小野 敦 《座長代理》
(岡山大教授・毒性)
- 三枝 順三 《座長》
(日本実験動物学会事務局長・毒性)
- 高木 篤也
(国衛研室長・毒性)
- ※松本 清司
(信州大教授・毒性)
- 美谷島 克宏
(東京農業大准教授・毒性)
- 義澤 克彦
(関西医科大講師・毒性)
- 中島 裕司
(大阪市立大教授・生殖)
- 納屋 聖人 《座長代理》
(産総研客員研究員・生殖)
- 八田 稔久
(金沢医科大教授・生殖)
- 福井 義浩
(徳島大教授・生殖)
- 根岸 友恵
(日本薬科大非常勤講師・遺伝毒性)
- 本間 正充
(国衛研部長・遺伝毒性)

評価第三部会

- 加藤 美紀
(名城大准教授・動物代謝)
- 篠原 厚子
(清泉女子大教授・動物代謝)
- ※玉井 郁巳
(金沢大教授・動物代謝)
- 與語 靖洋 《座長代理》
(農研機構研究領域長・植物代謝)
- 吉田 充
(日本獣医生命科学大教授・植物代謝)
- 川口 博明
(鹿児島大特任准教授・毒性)
- 久野 壽也
(名古屋市立大准教授・毒性)
- 高橋 祐次
(国衛研室長・毒性)
- 長野 嘉介 《座長代理》
(長野毒性病理コンサルティング代表・毒性)
- 西川 秋佳 《座長》
(国衛研研究センター長・毒性)
- ※山手 文至
(大阪府立大教授・毒性)
- 代田 真理子
(麻布大教授・生殖)
- 塚原 伸治
(埼玉大准教授・生殖)
- 中塚 敏夫
(名産研中部TLOアドバイザー・生殖)
- 石井 雄二
(国衛研主任研究官・遺伝毒性)
- 太田 敏博
(東京薬科大教授・遺伝毒性)
- 増村 健一
(国衛研室長・遺伝毒性)

クロラントラニリプロール（第5版）

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価書に追加した資料
適用拡大	アントラニリックジアミド系	カルシウムチャンネルに作用してカルシウムイオンを放出させ、筋収縮を起こさせる	殺虫剤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作物残留試験（コリアンダー） ・ 畜産物残留試験（ニワトリ） ・ 90日間亜急性毒性試験（マウス）

【試験成績の概要】

1. ^{14}C で標識したクロラントラニリプロールのラットを用いた動物体内運命試験の結果、経口投与後 48 時間の吸収率は低用量投与群で 76.2%～88.0%、高用量投与群で 16.5%～18.0%であり、投与後 72 時間で主に糞中に排泄された。また、胆汁中排泄率及び尿中排泄率とも高用量群のほうが低用量群より低かったことから、高用量投与では未吸収で排出されると考えられた。主要組織中の残留放射能濃度は、 $T_{\max}$ 付近で肝臓、消化管及び副腎で高値を示したが、経時的に減少したことから、体内蓄積性はないと考えられた。クロラントラニリプロールは肝臓において広範に代謝されると考えられた。
2. ^{14}C で標識したクロラントラニリプロールの畜産動物を用いた動物体内運命試験の結果、主要代謝物としてニワトリでは卵白で N (0.55 $\mu\text{g/g}$ 、40.4%TRR)、卵黄で C (0.078 $\mu\text{g/g}$ 、16.6%TRR) 及び E (0.112 $\mu\text{g/g}$ 、24.0%TRR)、ヤギでは肝臓で K (0.048 $\mu\text{g/g}$ 、7.54%TRR) が検出された。
3. ^{14}C で標識したクロラントラニリプロールの植物体内運命試験の結果、いずれの作物においても残留放射能の主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、代謝物として K、N、O、Q、S が検出されたが、いずれも 10%TRR 以下であった。
4. 各種毒性試験結果から、クロラントラニリプロールの毒性は低く、投与による影響は、主に肝臓（小葉中心性肝細胞肥大、変異肝細胞巣等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性、免疫毒性及び遺伝毒性は認められなかった。

フルチアニル（第2版）

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価書に追加した資料
・適用拡大	チアゾリジン環にシアノメチレン基を有する構造	新規の作用機序を有する	殺菌剤	・作物残留試験

【試験結果の概要】

1. 動物体内運命試験の結果、経口投与したフルチアニルの吸収率は低用量及び高用量でそれぞれ 20%程度及び 2%程度であった。吸収は比較的速く、広範囲の組織への分布が認められたが、蓄積性は認められなかった。投与放射能は主に糞中に排泄され、主要成分は未変化のフルチアニルであった。代謝物として糞中では微量の F 及び G が推定又は同定され、尿中ではトリフルオロメチルフェニル基部分のグルタチオン抱合体や硫酸抱合体由来の代謝物 N、O、P、Q、R 及び S が同定又は推定された。
2. 植物体内運命試験の結果、きゅうり以外の作物では放射能の大部分は表面洗浄液から回収され、植物体内への移行は僅かであった。残留放射能の主要成分は未変化のフルチアニルであった。きゅうりでは、最終処理 15 日後で 59%TRR～74%TRR が果実内部から検出されたが、その残留量は最大でも 0.002 mg/kg であった。10%TRR を超える代謝物はりんご葉で検出された L のみで、可食部において 10%TRR を超える代謝物は認められなかった。
3. フルチアニルを分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。フルチアニルの最大残留値は、いちご（果実）の 0.26 mg/kg であった。
4. 各種毒性試験結果から、フルチアニル投与による影響は、主に肝臓（重量増加、肝細胞肥大）に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

プロシミドン（第2版）

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価資料
・適用拡大	ジカルボキシイミド系	植物病原菌(灰色かび病、菌核病等)に対し、菌糸の伸張生育を阻害	殺菌剤	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬抄録 ・JMPR 資料 ・EU 資料

【試験成績の概要】

1. ラットの動物体内運命試験の結果、単回経口投与されたプロシミドンの吸収率は、投与後 168 時間で低用量では少なくとも 80.9%、高用量では少なくとも 62.9% と推定された。組織への分布及び消失は速やかで、特定の組織に蓄積する傾向は認められなかった。排泄も速やかで、主に尿中に排泄され、低用量投与群では投与後 24 時間で約 80%TAR が体外へ排泄された。尿中主要代謝物はカルボン酸体（D、J 及び K）であった。一方、ウサギ、サル及びヒト肝細胞キメラマウスにおいては、水酸化体（C 及び H/I）のグルクロン酸抱合体が尿中主要代謝物であった。
2. 植物体内運命試験の結果、葉及び可食部における主要成分はプロシミドンであり、10%TRR を超える代謝物は認められなかった。
3. 各種毒性試験結果から、プロシミドン投与による影響は、主に肝臓（小葉中心性肝細胞肥大等）及び精巣（間細胞過形成等）に認められた。遺伝毒性は認められなかった。
4. 発がん性試験において、ラットで精巣間細胞腫の発生頻度増加が認められた。発生機序検討試験の結果、プロシミドンは AR への結合性を有し、血中ホルモンの不均衡（LH の増加）を惹起することが明らかにされ、LH の持続的な刺激により精巣間細胞腫が発現したと考えられた。また、雄マウスで肝芽腫の発生頻度の増加傾向が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。
5. 繁殖試験及び発生毒性試験において、ラットの雄児動物に抗アンドロゲン作用に基づくと考えられる外生殖器の異常（肛門外尿道口間距離の短縮、尿道下裂等）が認められ、雄の繁殖率が低下した。しかし、ラットに尿道下裂が発現する 125 mg/kg 体重/日をウサギ及びサルの器官形成期に経口投与した場合、ウサギ及びサルの胎児に類似の所見はみられなかった。種差検討試験の結果、ラットでは主要代謝物である水酸化体の血漿中濃度が腸肝循環により高く維持されることが、種差の主たる要因であることが示唆された。